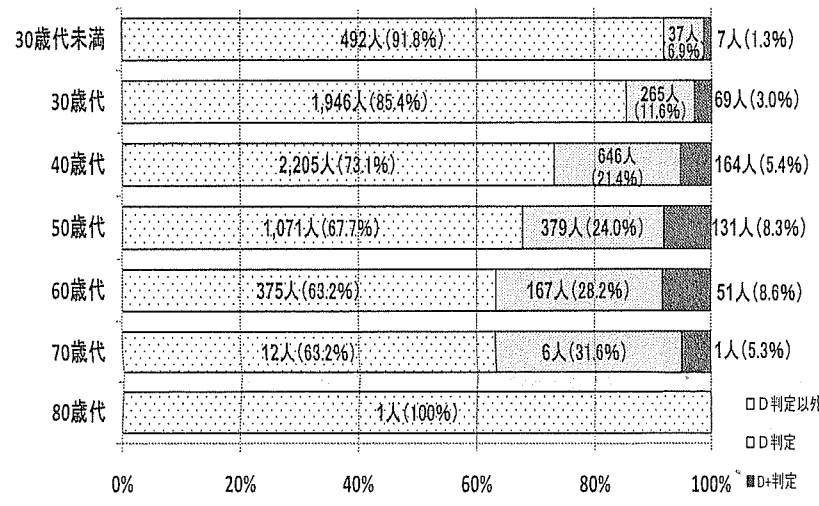


健康起因事故の主原因に OCHIS 調査

SASの潜在拡大 睡眠時無呼吸症候群 24%が要精密検査

運輸業界の健康サポートに取組むNPOヘルスケアネットワーク(OCHIS、理事長・武田裕大阪大学名誉教授)はこのほど、昨年度実施した睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査の判定結果と分析をまとめた。それによると検査実施者の



うち24%が精密検査の対象であり、重症者も全体の5・3%いることが分かった。この結果から運転中に事故を起こすような危険な状態にあること

を強く警戒し、すべてのドライバーに検査と結果対策を呼び掛けている。結果のまとめは、昨年度中に OCHIS が簡易検査機「パルスオキシメ

「夕」で実施した SAS 検査の受診者を対象にしたもので、総数は 802 9 人(男性 774 9 人、女性 280 人)。平均年齢は 43・8 歳(男性 43・9 歳、女性 43・2 歳)。これは前年度より 356 人増え、1・1 歳高くなった。

パルスオキシメータの検査結果では「要精密検査」の D 判定が 802 9 人のうち 1925 人いた。特に重症者となる D+ 判定が 423 人にのぼった。

D 判定者を年代別に見ると、40 歳代が 646 人で最も多く、50 歳代の 379 人、30 歳代の 265 人と続く。重症者の D+ 判定も同様の傾向で、40 歳代が 164 人と最も多く、50 歳代が 131 人、30 歳代 69 人となった。また D 判定、D+ 判定者のうち肥満指数 BMI

が 25 以上の肥満者は 40 歳代で合計 499 人、50 歳代 260 人、30 歳代 232 人と続いた。さらに SAS を自己認識については、認識していないと答えた 7257 人のうち D 判定、D+ 判定者の 1671 人いた。

こうした結果から OCHIS では、SAS は多くの年代に症状があるものの、特に 30 歳代から 50 歳代の働き盛りの年代で肥満体型者は SAS が潜在している可能性を指摘している。このため、睡眠中に窒息状態になり十分な睡眠が取れない SAS のために運転中の昼間などに急な眠気に襲われたり、集中力を欠くこととなったりする危険性を指摘している。また SAS が高血圧や動脈硬化などにつながる可能性があるため健康起因事故の主原因になることを強く危惧し、検査の受診と検査結果からの対策の重要性を強調している。

が 25 以上の肥満者は 40 歳代で合計 499 人、50 歳代 260 人、30 歳代 232 人と続いた。さらに SAS を自己認識については、認識していないと答えた 7257 人のうち D 判定、D+ 判定者の 1671 人いた。